

松下市長  
公約実現

# 18歳までの医療費無償化 共産党市議団も実現を求めてきました

12月に行なわれた第4回定例会で、18歳までの子ども医療費無償化条例案が賛成多数で可決されました。日本共産党も応援した松下玲子市長が市長選挙の公約で掲げていたもので、日本共産党市議団は、毎年の予算要望で実現を求め続けてきました。

## 自民、改革武蔵野などが反対討論するも賛成多数で可決

条例案は現行の中学生までを対象とした医療費無償化条例を改正するもの。21年度は入院費のみ、22年度から通院費も無償に。所得制限はありません。

自民党、改革武蔵野、内山議員らは反対討論で、「コロナの影響で税収減となる中今やるべきことなのか」、「独自の医療費助成をすれば国保の国庫補助金が削られるから国保財政健全化計画に逆行する」などと述べました。

日本共産党の本間まさよ議員は条例改正案への賛成討論を行ない、これらに反論しました（要旨）。

全国知事会や全国市長会は、国が全国一律の子ども医療費助成制度をつくること、国保への国庫補助減額措置の廃止も求めている。ペナルティがあるから医療費無償化を拡大すべきでないというのは、す

で行なわれている義務教育就学児を対象とした医療費無償化も否定することになる。

武蔵野市医師会や柔道整復会など、口頭、子どもたちの医療に携わっている関係者も無償化の対象拡大を求めている。

新型コロナウイルス後遺症の治療などは自己負担となり、症状次第で高額な負担になり、報道では10代からも負担増の訴えがあった。医療費の負担軽減は今こそ必要である。

条例案は、賛成15人（共産党2、立憲民主ネット5、公明3、ワクワクはたらく2、山本ひとみ、山本あつし、下田ひろきの各議員）、反対10人（自由民主・市民クラブ7【議長除く】、改革武蔵野・都民ファースト、内山さとこ議員）で可決されました。



## 新型コロナ 感染症対策

市民全員1人5,000円分

# 市が独自にくらし地域応援券を発行

武蔵野市は、感染拡大防止対策の拡充など、総額8億3169万円の支援策をまとめ、第4回定例会では補正予算案が全会一致で可決されました。

## 高齢者 障害者施設、接待を伴う飲食店従業員へのPCR検査を実施

市は、市民の生活支援、市内事業者支援及び地域の活性化をめざし、一人あたり5千円の「くらし地域応援券」（5百円券×10枚のセット。4枚は大型店でも使えるA券、6枚は大型店を除く参加店で利用できるB券）を在住市民全員に2月中旬ごろ郵送します。

市は、都の補助を受け、高齢者及び障害者施設の利用者・職員を対象としたPCR検査費用の助成、接待を伴う飲食店の従業員を対象としたPCR検査を実施。市のPCR検査センターの開設を3月31日まで延長します。

## 共産党 年末の相談体制、中小業者支援の強化、保健所の増設 体制強化を求めました

日本共産党市議団の2人の議員は、一般質問でも新型コロナウイルス対策の拡充を求めました。

本間まさよ議員は、新型コロナウイルス「第3波」という中で、中小企業者への支援制度の復活、改善、非正規労働者や低所得の市民の支援を求めました。

松下市長は、地域くらし応援券の発行を強調しつつ、まちの声を聞き、過去に実施した施策も含め、必要な支援、対策等について検討し、取り組んでいきたい、生活困窮者への相談体制の強化をしていくと答弁しました。

橋本しげき議員は、さらなるPCR検査の拡充を求め、保健所との連携強化、保健所体制の強化を国や都に求めていくよう質問。

市長は、10月の知事と区市町村長との意見交換で自治体が正確に現状を把握できるように情報提供体制の構築などを提言、保健所職員の体制整備と人員増、多摩府中保健所武蔵野三鷹地域センターを、緊急対応として武蔵野市、三鷹市をエリアとする感染症対策の機能を持った支所として拡充するよう要望したと答えました。

# 市民のみなさんの切実な声を届けました

日本共産党武蔵野市議団

## 核兵器禁止条約の発効、公立保育園存続、シルバー人材センター・リサイクル事業

本間まさよ議員は、一般質問で核兵器禁止条約発効について、市長の見解、市の平和事業の取り組み、政府への働きかけを尋ねたところ、松下市長は、核兵器廃絶への大きな一歩になると認識し、一連の事業は「戦争も核もない世界を武蔵野から」をスローガンにして、市民参加で継続しており、条約発効後も継続していく、今後も平和を目的とする会議に参加し、他の首長等とも連携し、平和の大切さとともに、国には条約に署名、批准するように訴えていきたいと答弁しました。

武蔵野市立保育園のあり方検討有識者会議が報告書を出し、現在の市立保育園4園の存続、保育士

### 都立・公社病院を守ってほしい

「都立病院・公社病院の『地方独立行政法人』化の中止に関わる意見書提出を求めることに関する陳情」が厚生委員会得不採択となったため、本間議員が本会議で陳情への賛成討論を行いました。

本間議員は、「独立行政法人化」で病院の経営は「効率性」と「独立採算」を強く求められ、患者の負担が増大すること、災害、感染症医療、高度な精神科医療、特殊

の戦略的な人材確保を提言したことの受け止めと保育士、栄養士の採用について質問しました。市長は、市として必要な職員確保と体制の整備に取り組むことが重要、幅広い視野や見識、的確な判断力等を身につけた保育士の育成に、積極的に取り組んでいきたいと答えました。

その他、本間議員は、シルバー人材センターの事務所移転に伴い、家具などの再生整備をするリサイクル事業の存続を求める声を紹介し、従事する方々の丁寧な意見集約を求めました。

本間まさよ  
市議会議員



な救急医療、島しょ医療など行政が担わなければ受け入れが困難な医療がさらに後退することなど問題を指摘。また、独法化の口実の一つとされている柔軟な運営は独法化しなくてもできることを明らかにし、陳情の採択を訴えました。

しかし、自民・市民ク、公明党、立憲ネットなどは陳情を不採択としてしまいました。

## 公共駐輪場の大幅値上げ

## コロナ禍で暮らしは大変…中止して見直しを

橋本しげき  
市議会議員



橋本しげき議員は、一般質問で21年4月実施が予定されている駐輪場の利用体系の見直し計画について質問しました。

【橋本議員】三鷹駅北口と南口の駐輪場定期利用料金(月額)を比較すると、北口は市民最大3000円、市民以外3800円、南口は最も高いところで市民最大2800円、市民以外最大3000円、他は2000円前後であり、武蔵野市の駐輪場は近隣と比べても高くなるのではないかと。

【松下市長】定期利用については、一時利用の料金を基にし、駅中心から公共駐輪場までの距離別に額の設定を行い、置き場の階層、市民と市外在住者、学生、障害者等を考慮した料金体系としている。各自自治体での状況、課題、考え方も異なるので、単に比較することは難しい。

【橋本議員】定期利用と一時利用の割合を現在約7対3から3対7と逆転する計画で、現状の駐輪スペースを何とかやりくりしようとするもの。駐輪場の確保、増設が必要ではないか。

【松下市長】駐輪場の確保、増設については、利用者の利用環境の継続的な確保と放置自転車防止の観点から、駅中心エリアの外周部へ誘導するなど配置を含め、恒久的に維持できる施設の確保が必要であると考える。

この他、橋本議員は、利用者の意見の反映や周知は適切だったのか、市民以外の利用料金の値上げ幅が市民以上となっている理由は何か、利用料金収入がどのように使われるか、どう透明性を確保するのかなどを質問しました。



【写真】定期利用料金が大幅値上げになる、三鷹駅北口の中町第1駐輪場

橋本議員は、新型コロナ感染症の拡大で市民生活に大きな影響が出ており、市民の暮らしが大変な下で来年度の利用料金の値上げは行なわれないことを強く求めました。

市長は、新型コロナ感染症拡大により、市民生活が非常に大変になったと認識している、としながら、1年かけて説明をして、利用料の適正化を図り、自転車を利用される方がより公平な形で利用いただけるようにした、と答弁しました。

そして、一時利用の駐輪場において2時間無料制度を統一的に導入することで、これまで短時間の利用で100円を払っていた方が無料になるケースもある一方で、単純に利用料金の値上げとは考えていない、と述べました。